

令和4年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立若宮中学校
実施日	令和5年3月6日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・計画的な運営に基づいた学校づくりがされている。また、今年度、授業中のICTの活用がかなり進んでいてとても良い。授業のみならず、校務におけるICTの推進も著しい。説明が不十分な部分についてのアナウンスが必要。	B	・部活動等で優秀な成績を取られていることを知りました。是非、学校全体に良い風を吹かせていただければと思います。 ・若宮中の特色とは何かもっとアピールや共有ができるとうい。 ・ICTについては今後、アシスタント要員の配置など、市とともに考えていくべき。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	・事故、トラブルなどが発生した際に、職員の迅速な対応がされている。事故、トラブル発生時の対応と発生後の確認も行えている。避難訓練や緊急時の際、生徒がどう動くのかの訓練はもちろんのこと、職員の動き方を確認する。	A	・事故、トラブルなどが発生した際には、マメールを利用して保護者や関係者にも情報提供されていてよいと思います。 ・今後は、地域の広域的な災害時の対応について、自治会や市役所との連携や話し合いの場があるとよい。 ・登下校の際の交通ルールを守り、安全第一でお願いしたい。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	・調整や年休を含め、休暇を取る声かけがありがたい。早めの退勤を促す声掛けもあった。計画的な休暇の取得ができるとよい。各月1回のノー残業デーをはっきりと設定し、機能させていきたい。会議の終了時刻を決めて臨むなどの工夫もあるとうい。	B	・環境整備も職員の負担になる部分だと思うが、時間外で4なく、毎日ある掃除の時間を子どもたちと環境を整える時間と捉えて、課題を考えていけるとよい。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	A	・日頃から熱心な授業の取組みがされている。学び合い研修やICT活用研修会等を通じて授業改善を行っている。ICTの活用が昨年度より進んでいる。研修会は実施されたが、その後の発展につなげたい。	A	・現段階では、よくできていると思うが、今後もっとICTだからこそのできる、個々の理解度によって、より高度な内容にチャレンジする生徒や、基礎に戻って理解を深める生徒に対応できるとよい。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・豊かな心を育むために、道徳の授業の充実に取り組んでいる。道徳の授業を担当まかせにするのではなく、ローテーション道徳で多くの先生方が関わったり、個別指導など推進したりして、心を育てる活動を行っている。道徳の時間の確保や他教科に振り替えてしまうことに注意。	B	・いじめ対策やスマホ、SNSのマナー講習等、今後とも力を入れていきたいと思っています。 ・道徳担当のローテーションはよいし、時間の確保は、さらに重要であるとする。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	・生活安全委員会の朝の挨拶運動を通して、挨拶をやるうとしていた生徒たちの意欲を感じる。その意欲を上手に活かしていきたい。挨拶をする生徒は多いが、挨拶を返せない生徒もそれなりにいる。授業中等、自分の考えを発表できる生徒の育成ができるとよい。	A	・どの学級も大変落ち着いた姿で、学習に真剣に取り組んでいました。 ・落ち着いた授業に取り組めているのはよいが、授業中のメリハリとして、ディスカッションの時間を必ず取り入れるなどしてもよいと思う。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・教職員事故や不祥事根絶のために、倫理確立委員会等、定期的に開催して、不祥事防止に努めている。また、定期的に教員間で共通理解を図り、職員室の雰囲気なども明るい。	A	・今後の予防的な取り組みとして、SNSを含めたアンケートの実施などを行う。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。	A	・生徒一人ひとりの個に応じた対応がしっかりしている。普段から生徒との距離感を大切にしている。生徒との関係、教員間の関係なども雰囲気なども温かい。	A	・生徒「その一人」を大切に指導されている先生方の姿が、どの授業からも伝わってきていました。 ・不登校の生徒がいっしょやるということで、不登校=悪 ということではなく、一人ひとりの支援をどうぞお願いします。 ・もっと、外部やボランティアの力を借りて対応してほしい。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	・特別支援学級担当の先生方を中心に丁寧な対応をしている。特別支援教育コーディネーターを中心に、通常学級に在籍している個別の支援を必要としている生徒への対応が確立されつつある。ユニバーサルデザイン化にも力を入れたい。	B	・バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化についても、推進をお願いいたします。 ・現時点で、支援が必要な生徒への対応はよいと思う。 ・不登校については、外部機関や医療との連携も必要。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	・定期的な安全点検が実施されている。環境整備については、よくやってくれている生徒が多い。施設設備の面で掲示物を掲示できる場所が多いとうい。	B	・安全点検項目にそった点検はよいが、自分がいつも使っていないような場所を見直すなどの工夫で、新しい気付きもあるのではないかな。 ・校舎の生徒用トイレの改修をお願いしたい。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	B	・新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭や地域の方々に学校に来ていただく機会は減っているが、できる範囲で行えている。HPを定期的に更新できるとよい。	B	・家庭との風通しの良い関係の構築をお願いします。 ・コロナ禍であったからこそ、もっと外への発信が大切であったかと。 ・外掲示板の設置により、地域の人への発信もできるのではないかな。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	・登校時の見守り、学校ボランティア等、積極的にご協力いただいている。また、通学路に保護者の方が立っていただいている。今後の課題として、人材の確保が必要。	B	・現在は、一部の方々の善意によるところが多い。それにより、生徒たちの心にどのような効果があるのかを、データ化や記録を残せるとよい。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたつた教育活動を推進している。(市共通項目)	B	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小学校との情報交換の場が一部の教員に限られてしまっていた。小中連携の取組みについてはまだ、課題がある。不登校生徒の増加等、年々、中1ギャップが現象化している。	B	・小学校としても小中の連携を一層工夫し、強化していきたいと考えています。 ・コロナ禍でも、タブレットの活用、オンラインの交流なども工夫してきたのではないかな。 ・中学生を授業アシスタントとして派遣するなど学び合いの場を増やしたい。